

文教公安常任委員会

(10月3月)

質疑
応答

警察と教育庁の人事交流について

山科 宮城県では警察と教育庁の人事交流があると聞くが、宮城県の取り組み状況はどうなっているのか。

少年課長 平成17年から仙台市教育委員会の教育相談課に警部補1名を派遣し、仙台市教育委員会からは県警本部少年課に係長の派遣を受け入れていると聞いている。取り組み成果については把握していない。

山科 本県でも同様の人事交流があると聞いているが、状況はどうか。

少年課長 現在、少年補導専門官を村山教育事務所に派遣し、高等学校教員を県警本部少年課の少年対策・相談担当調査官として出向で受け入れている。人事交流職員が、非行、いじめ、校内暴力等発生時の連絡調整を行うとともに、学校と警察署間における具体的な内容にまで踏み込んだ情報交換や、学校警察連絡協議会における意見交換等を行うことで、いじめや校内暴力等の問題行動への対応に当たっている。今後もこのような連携体制をいかしていじめ問題等に適切に対応していく。

山科 子どもを犯罪者にしないために、互いのノウハウを共有ししっかりと教育を行ってもらいたい。また、様々な問題が出ていることから、人事交流の範囲、人数を増やすよう要望する。

キャリア教育とインターンシップについて

山科 キャリア教育におけるインターンシップの成果はどうか。

高校教育課長 就職を希望する生徒が多い高校で積極的にインターンシップに取り組んでおり、職業観や勤労観を醸成することを大きな柱としている。人との接し方、挨拶の仕方、電話対応の仕方などを事前に指導し、事後指導として、礼状の書き方や、体験談やレポートを作成して同学年や下級生に発表するということを行っている学校もある。学校により、一人ひとりにキャリアノートを持たせ、3年間の記録を残し振り返りができるようにしているところもある。

山科 学校からの指導はあるものの、楽しい思い出を作った学校に帰らせているだけの企業もあり、本来の目的が達成されているのかと思ってしまう。インターンシップ中は挨拶などをきちんとやっているが、学校や家庭に帰ってからはどうなのかなど把握しているのか。

高校教育課長 生徒としてみれば、学校に戻ってくれば緊張感がほぐれる。しかし、就職が間近になれば、インターンシップ

私の 考え



等での経験を生かし状況に応じた行動ができるようになる生徒が多い。

山科 キャリア教育の一環として、最も身近な大人である親の働き姿に触れさせることは、親に感謝する気持ちを育むなど大きな意義があると思うが現状はどうか。

義務教育課長 中学校では、親の職業について調べる体験を設定したり、保護者の職場を体験の場として開拓したりしている。体験後のレポートには、親の働く姿に特別な想いをもったという子どもの感想が多くみられた。

山科 このような取り組みを取り入れている学校の割合はどの程度か。

義務教育課長 いずれの学校においても、子どもや地域の現状に合わせて適切な活動に取り組んでいる。仕事に関する保護者からの講話を取り入れている学校なども含めれば、3〜4割程度の学校は保護者と連携して取り組んでいる。

山科 親が汗をかくて働く姿に早い段階で触れることは、自分がどのようにして存在しているのかを知り、健全な職業観・就労観を育むのに必要だと考える。ぜひそうした取り組みを増やしてほしい。

その他の主な質疑内容

- 飲酒運転撲滅への取り組みについて
- 雪に対応した信号機の設置、標識等の整備について
- 取り調べの可視化について
- スポーツ少年団の活動状況と子どもの健全育成について
- 県教育センター電話相談・県警少年メール相談窓口の利用状況と対応について
- 「山形の宝」育成事業と文化財の活用、教育との関連について
- 高校生の就職内定状況と就職指導について
- 幼児児童虐待に関する覚書締結と虐待防止について
- 学校給食におけるアレルギー対応について
- 体罰への対応と高校体育科入試について
- 悪質商法の取締状況と未然防止について
- 特別支援学校卒業予定者の就職内定状況について
- 後期高齢者の運転免許行政について など

※悪質商法に困った時は
電話番号
#9110へ
警察が相談のります

決算分科会

質疑
応答

特色ある高校づくりについて

山科 鶴岡中央高校は単位制のもと、芸術や外国語教育に力を入れ成果をあげており特色ある学校だと思った。特色ある高校づくりに地域間格差があると感じるがどのように考えるか。

高校改革推進室長 専門高校は地域産業の特性を踏まえて整備してきた。総合学科は、県内8地区のうち、予定も含め6地区に設置される。最上地区については、昨年度の検討委員会で総合学科設置の要望があり、次期改定の後半で最上地区の高校再編を検討していく。

最上地区への看護学校の設置について

山科 最上地区への看護科設置の必要性について地域住民の声がある。最上地区内では、高校卒業後に60名ほどが医療関係の学校に進んでいるという。置賜地区の高校再編では看護に関する学習が検討されていると聞くが、最上地区にも必要ではないか。単位制を活用し、新庄神室産業高校で看護の基礎を学び、その後山辺高校の専攻科へ編入できることとするなどの検討はできないか。

高校改革推進室長 再編後の荒砥高校の総合学科は資格取得を目指すのではなく、看護の基礎やその志を学ぶ看護基礎という科目を配置し上級学校へつなげていこうとするものである。単位制というのは、校長が定めた単位数を修得すると卒業できる制度だが、その中で資格に必要な1,890時間を学習するのは困難である。最上地区での看護科設置については現時点で明確に答えられないが、総合学科の中で看護に関する基礎や志を学ばせることは可能だと考えている。

例えば、山辺高校の分校を最上地区に設置し山辺高校の専攻科2年と合わせた5年一貫教育ができないかと考え、国に問い合わせたが、本校と分校の間であってもそれぞれ単独で教育を行っているため、5年間一貫した教育を担保できないのではないかと回答であった。

山科 アメリカではトランスファーという複数の